

鳴瀬川水系河川整備計画（大臣管理区間）を変更しました

国土交通省東北地方整備局では、平成 27 年 9 月洪水（関東・東北豪雨）により、鳴瀬川水系で甚大な被害が発生したことなどを踏まえ、鳴瀬川水系河川整備計画（大臣管理区間）を変更（平成 28 年 11 月 30 日）しましたのでお知らせします。

■これまでの経緯

- ・平成 19 年 8 月 鳴瀬川水系河川整備計画（大臣管理区間）を策定
- ・平成 24 年 11 月 東北地方太平洋沖地震（H23. 3. 11）による甚大な被害を受け、鳴瀬川水系河川整備計画（大臣管理区間）を変更
- ・平成 26 年 8 月 「鳴瀬川総合開発事業」「筒砂子ダム建設事業」について、ダム事業の検証に係わる検討を行い、対応方針決定（H25. 8）にあわせ、鳴瀬川水系河川整備計画（大臣管理区間）を変更

■「鳴瀬川水系河川整備計画」の変更にあたっては、学識経験者や地域住民の方々意見を聴くと共に、宮城県知事からの意見を踏まえ変更されたものです。

■「鳴瀬川水系河川整備計画」（大臣管理区間）の本文は、下記ホームページのアドレスよりご覧いただけます。

○鳴瀬川水系河川整備計画（大臣管理区間）

<北上川下流河川事務所ホームページ>

<http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/>

<発表記者会>

石巻記者クラブ、古川記者クラブ、宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会

問い合わせ先

【国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所】

技術副所長 こんの ひろみ 今野 裕美 （内 205）

調査第一課長 おおさわ しゅういち 大澤 修一 （内 351）

電 話：0225-95-0194（代表）

【国土交通省 東北地方整備局 鳴瀬川総合開発調査事務所】

調査設計課長 さいとう まさひろ 齊藤 勝博 （内 351）

電 話：0229-22-7811（代表）



鳴瀬川水系河川整備計画の変更方針

◆整備計画変更の背景

鳴瀬川水系河川整備計画は平成19年8月に策定され、これまで、治水・利水・環境における目的が総合的に達成できるよう河川整備を実施してきました。

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生し、地震に伴う津波や地殻変動による地盤沈下等により、鳴瀬川の河口部を含む太平洋沿岸域において甚大な被害を受けたため、これを契機として、平成24年11月に「鳴瀬川水系河川整備基本方針」及び「本計画」を変更しました。

また、国土交通省所管の「鳴瀬川総合開発事業」と宮城県所管の「筒砂子ダム建設事業」について、「両事業を統合し、筒砂子ダム（規模拡大）と漆沢ダム（既設）との容量再編により田川ダムを中止する案が最も有利である。」と国土交通大臣に報告し、平成25年8月23日に国土交通省の対応方針が決定されたことから、これを踏まえて、平成26年8月に計画の変更を行いました。

今回、関東・東北豪雨（平成27年9月洪水）により鳴瀬川水系では甚大な被害が発生したこと、並びに、筒砂子ダムの目的及び諸元に変更が生じたことから、本計画の変更を行うものです。

鳴瀬川水系河川整備計画(変更)の経緯

鳴瀬川水系河川整備基本方針の決定(平成18年2月)

鳴瀬川水系河川整備計画の策定(平成19年8月) **整備計画策定**

平成23年3月11日東日本大震災発生

鳴瀬川水系河川整備基本方針の変更(平成24年11月)
河口部及び広域地盤沈下に伴う変更(河口部堤防高、計画高水位の見直し)

鳴瀬川水系河川整備計画の変更(平成24年11月) **整備計画変更**

鳴瀬川総合開発事業、筒砂子ダム建設事業の対応方針を決定(平成25年8月)
両事業を統合し、筒砂子ダム規模拡大と漆沢ダム(既設)との容量再編により田川ダムを中止

鳴瀬川水系河川整備計画の変更(平成26年8月) **整備計画変更**

関東・東北豪雨(平成27年9月洪水)の発生

鳴瀬川水系河川整備計画の変更(平成28年11月) **整備計画変更**

鳴瀬川水系河川整備計画の変更内容

①「関東・東北豪雨」発生による見直し

関東・東北豪雨（平成27年9月洪水）を受け、河川整備計画を見直し。

②ダム事業のダム計画変更による見直し

筒砂子ダムの目的及び諸元について変更。

③水防法改正及び答申等による見直し

超過洪水への対応・対策を修正・追加。

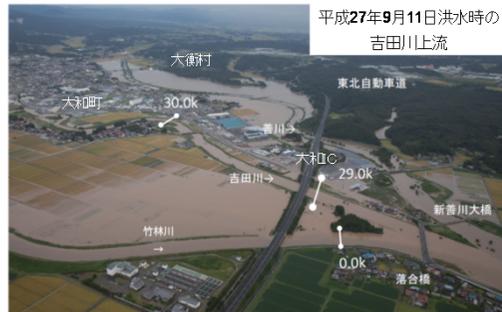
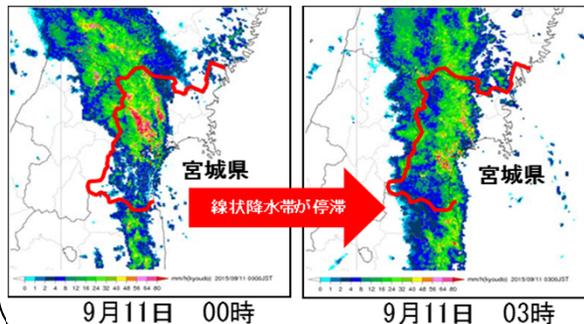
④その他の事項による修正

現行の鳴瀬川水系河川整備計画に記載している統計データ等の時点修正。

【関東・東北豪雨(平成27年9月洪水)の出水概要】

関東・東北豪雨(平成27年9月)では、関東から東北南部に線状降水帯と呼ばれる発達した帯状の雨雲が南北にかかり続け、関東、東北で記録的な大雨が発生しました。

この豪雨により鳴瀬川の三本木地点上流域では、流域平均2日雨量310.4mm(観測史上第1位)、吉田川の落合地点上流域では、流域平均2日雨量324mm(昭和23年アイオン台風の334mmに次ぐ観測史上第1位)、河川水位は鳴瀬川・吉田川の水位観測所15観測所のうち、13観測所で観測史上第1位を記録し、吉田川本川及び支川で越水、溢水による家屋浸水も発生、甚大な被害が発生しました。



①「関東・東北豪雨」発生による見直し

- 吉田川の整備目標を昭和22年9月洪水と同規模から平成27年9月洪水と同規模に変更
- 新たな洪水調節施設（遊水地群）を整備計画に位置付け

関東・東北豪雨(平成27年9月洪水)と同程度の洪水においてもピーク水位が計画高水位以下となるよう、下記の位置図に示す吉田川上流部に新たに遊水地群を整備するとともに河道掘削等を行います。なお、大臣管理区間外に整備する場合には、宮城県と十分な協議・連携を図ります。



河川名	施設名	治水容量
吉田川	吉田川上流遊水地群	200~300万m ³

吉田川上流遊水地群整備箇所位置図

石巻湾
※遊水地の位置・諸元等の詳細については今後検討し決定していきます

②ダム事業のダム計画変更による見直し

- 筒砂子ダムの目的に、発電に関する事項の追加
- 筒砂子ダムの型式を、台形CSGダムに変更

筒砂子ダムの諸元

	ダム型式	ダム高(m)	堤頂長(m)	総貯水容量(千m ³)	湛水面積(km ²)	集水面積(km ²)
元計画	ロックフィル	114.5	402.0	45,700	1.51	42.4
変更計画	台形CSG	105.0	345.8	45,700	1.51	42.4

※筒砂子ダムと漆沢ダム(既設)との容量再編は、実施計画調査中のため、利水計画変更などにより、今後、記載内容を変更する場合があります。

③水防法改正及び答申等による見直し

施設の能力を上回る洪水等が発生した場合においても、人命・資産・社会経済の被害をできる限り軽減することを目標として、以下の取り組み等を進めます。

- 堤防整備、水防活動拠点整備等のハード対策に加え、市町村へのハザードマップ作成支援
- 市町村との防災情報の共有・提供等のソフト対策を推進し、危機管理体制の強化を図る
- 地域住民も参加した防災訓練の実施

上記の取り組み等により、災害時のみならず、平常時から防災意識の向上に努めることで、危機管理型ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に促進します。